Ⅳ　事業報告

1　近年の本校定時制進路について

（１）本校定時制の進路希望の推移

①卒業予定者の進路決定状況

	平成２６年度					平成２８年度					平成２９年度				
	4月初 希望調査	10月末 決定者	決定率 （%）	3月末 決定者	決定率 （%）	4月初 希望調査	10月末 決定者	決定率 （%）	3月末 決定者	決定率 （%）	4月初 希望調査	10月末 決定者	決定率 （%）	12月末 決定者	決定率 （%）
四大	10	1	10.0	7	70.0	10	1	10.0	8	100	9	0	0	5	50.0
短大	3	0	0	3	100	1	0	0	2	100	2	0	0	1	100
専門	25	16	64.0	24	100	14	3	21.4	15	100	8	3	33	8	66.7
就職	31	19	61.3	25	83.3	38	21	55.3	30	96.7	30	10	44	20	90.9
その他	10														
合計	79	36	45.6	60	75.9	63	25	39.7	55	88.7	49	13		34	69.4

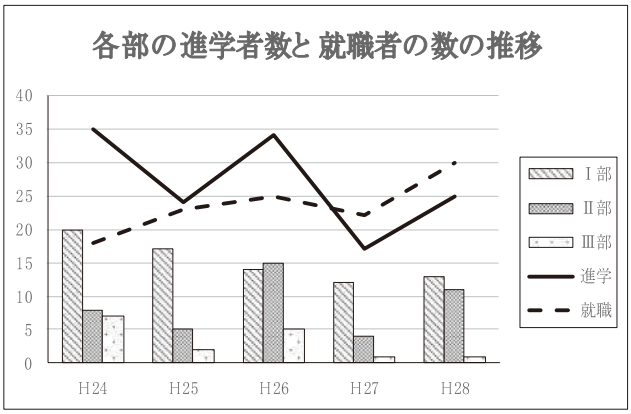
※決定率は決定者数／その時点の希望者数、決定者に「その他」は含まない。

※「その他」は、「未定」(「アルバイト継続」「パート」「卒業目標」「予備校」「就業の必要なし（高齢)」等)

研究事業開始前と比較するために、平成２６年度と平成２８年度を参照する。

平成２６年度以前までは、年度当初の希望調査の段階から「卒業目標」・「アルバイト継続」という生徒が見受けられ、約２０名（全体の２０～３０％）が進路先未定のまま卒業を迎える状況であったが、平成２８年度は求人数増、本事業の研究成果もあり、「その他」の数が激減しており、決定率が約９割になった。今年度は研究集録作成時点の１２月末のデータであるため途中経過だが、進学を中心に決定率は上昇するものと考えている。また、この時期を境に進学者・進学希望の生徒数が減少し、就職希望者が増加している。平成２４年度からのデータをもとに分析してみたい。

図１



②卒業予定者の進学・就職の推移

図１にあるように、やはり、平成２７年度に就職者数と進学者数が逆転している。近年の傾向をみてみると、進学のうち専門学校を考えていた生徒が就職に転じることが増えており、相関が見て取れる。(図２)

企業側が人材確保を優先し、雇用後に資格を取得させるというケースが増えてきたことも一因と考える。(介護・理美容・自動車整備など)

図２

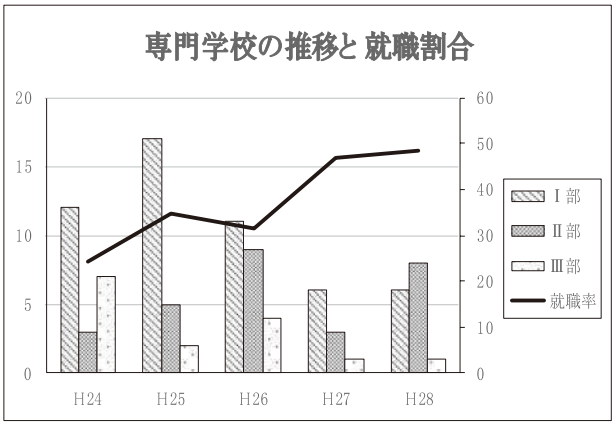
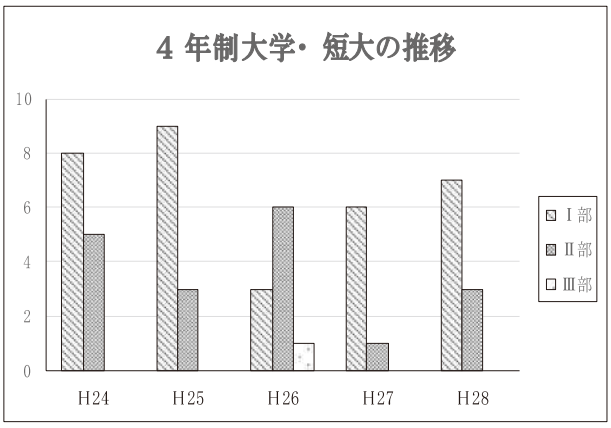


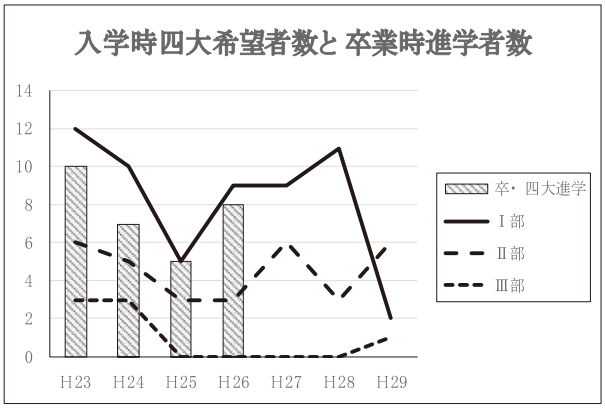
図３



４年制大学・短期大学への進学希望の推移は図３にあげた。以前からⅠ部（午前）が概ね希望者が多く、Ⅱ部（午後）は年によっての変動が大きく、Ⅲ部（夜間）は専門学校が主という状況であった。ここ数年は入学時から４年制大学・短期大学を希望する生徒が少なくなってきており、センター試験受験者数も一桁になっている。これは専門学校希望とは異なり就職との相関はなく、入学時から進学を希望する層が薄くなったためと考えられる。

図４に、入学時の各部四大希望者数を折れ線グラフ、実際の進学者数を棒グラフで示した。（２７年度以降は在学中のため無）入学時、卒業後の進路まで考えられないというのはどの高校生も同じだろうが、特に不登校などで小中学校での学習経験がない生徒にはイメージしにくく、学力に対する不安、経済状況などから「就職で」という安易な気持ちで選択し、卒業を間近に控え後悔することも多い。入学当初は就職・進学に分けた指導ではなく、様々な進路についての情報や道筋を教え、考えさせることが必要である。

図４



現在、四大・短大、看護医療系専門学校の希望者には、それぞれの目標達成を図るため授業以外で講習や個別指導を行っている。それに加えて希望を断念せずに済むよう、低学年次の意識の啓発として、２８年度から「進学セミナー」（講師：桑名　暢　氏）を計画し、高１・高２の長期休業時の講習前に学習に向かう意識を持たせる試みを行っている。

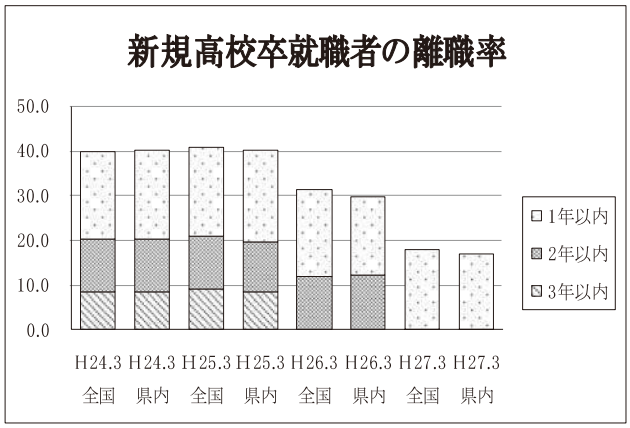
また、保護者に対しても桑名先生に依頼しＰＴＡ総会時に「進学セミナー」を開催した。親子で進路についての話をするコツから具体的な進学にかかる経費、教育ローン、奨学金など様々な情報を網羅したお話をしていただいた。セミナー後、保護者が個別に相談する姿も見え、「進学できる」道筋を学ぶ機会を設けたことは有効であった。

次に本事業の推進会議でたびたび話題になった「離職・退学」の状況について考えてみたい。

（２）本校定時制の離職状況について

①新規学卒者の離職状況（全国・県内）

図５



まず厚生労働省、山形労働局のデータから新規高校卒業者の全国及び県内の離職率を確認する。

図５に離職率の推移のグラフを載せたが、全国・山形県内ともに大きな差は見られない。おおよそ、３年以内で４割が離職している。また、全国の事業所規模別離職状況を見ると、規模が小さいほど離職率が高く、３年以内離職率は、５人未満・５～２９人で６割、３０～９９人で５割弱、１００～４９９人で４割弱である。求人票からみて県内は１００～３００人という規模の企業が多いので、県内全体の離職率が全国並みというのは県内企業の職場定着促進の活動の成果と言える。就職者の考え方が年々幼くなっていると以前から言われているが、それをふまえ県内企業では若年者の人材確保に向けて、山形労働局・ハローワークなどの働きかけにより、とても丁寧に指導をしていただいている。

次に本校定時制の離職状況について調査した。これまで離職の情報はあがってきていたが数値としてまとめたことはなかったので、今年度、企業訪問や担任団との情報を元に離職の実態を以下にまとめた。

②本校定時制の離職状況について

図６

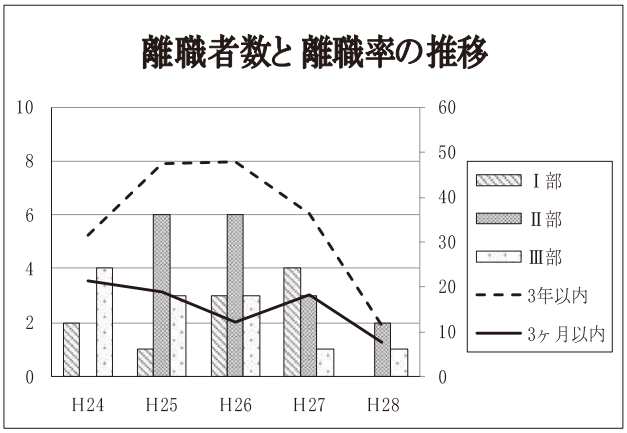


図６の棒グラフは各部の離職した人数（第１軸）、折れ線グラフは離職率（第２軸）である。

３年以内の離職率は

平成２４年度が３１．６％、

平成２５年度が４７．６％、

平成２６年度が４８．０％である。

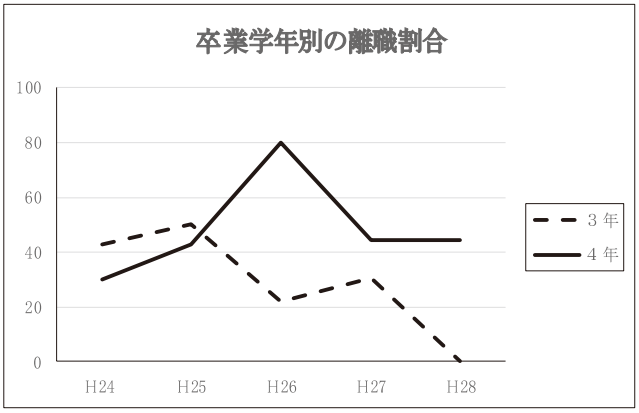
※平成２７年度・２８年度は３年に充たないので、現時点の数値である。

平成２６年度までは高卒求人の数が少なく志望する仕事に就けないことも多く、求人が出ないために違う職種を選択せざるを得なかったことが離職要因となっているようだ。本校は先頃２０周年を迎えたが、つい最近まで多部制の定時制（昼間定時制）に対する認知度が低く、採用に難色を示す企業も少なくなかった。それらの結果、「不本意」な選択となったためか、転職を試みた者が多いようである。離職後に就業できず引きこもりになるというケースは少ない反面、早期離職をくり返してなかなか定職に就けないケースもある。それをふまえて、図５には３ヶ月以内・３年以内の離職率をあげた。平成２７・２８年度の数値は３年未満、現時点で把握しているものであるが、この事業を開始してからの離職は減少していると言える。

離職状況を調査してみると、３ヶ月以内の離職が多かった。言い換えれば、この３ヶ月をクリアできれば継続できるとも言える。早期離職の理由を聞いてみると、失敗を少しきつく注意された、朝起きられず遅刻をして注意された等の理由が多い。図６には各部の離職人数も示した。高校に入学する際、朝起きられないからⅡ部（午後）、Ⅲ部（夜間）を選択したという事情はあると思うが、一般的な会社に勤めるならば、卒業までに朝型の訓練を自分に課すことは必要である。

また、本校は４年で卒業する者（４修）、３年で卒業する者（３修）が混在しており、卒業予定者の数は年度によって幅がある。概ねⅠ部（午前）は３修が多く、Ⅲ部（夜間）は４修が多い傾向にあるが、離職傾向は年次によっても特徴が見られるので、年度・年次別の割合のグラフを図７に示した。

図７



３修は、他部との併修で単位を取得して卒業するため、空き時間も含めた８時間の授業を履修する。そのため、生活習慣や自己管理ができなければ卒業できない。４修は自分の在籍する部の時間帯の４時間の授業が基本なので、朝に登校しなくてもよい生徒もいる。以前はアルバイト（就業）との両立ということで４修を選択した者もいたが、ここ数年は心身の状況等を考慮した選択や、３修を目指していたが取得単位数の不足で４修に変更するなど、アルバイト（就業）をしていない生徒も多い。そのためか、担任の進路指導（応募先企業の決定、就職試験に向けた対策、再チャレンジの指導等）も４年の方が難しいという声が聞かれる。離職割合も図７に示したとおり、４修の離職率が高い傾向にあり、在学中に基本的な生活習慣・社会経験等を身に付けさせることが必要と思われる。

離職時に企業側では部署替えの提案や家庭訪問などを行ってくださっているが、保護者の理解・指導力も低く、「本人が離職したいなら止めない」「そういう会社なら辞めた

らいい」等、説得する姿勢がないという話を聞く。企業訪問では卒業生ががんばっているという話を伺うことも多いが、反面「社会人としての意識がない」「打たれ弱い」「考えが幼すぎる」「遅刻する」等の指摘を受けることもある。

本事業では３年間ソーシャルスキルトレーニング講座を行ったが、内定が出る１０月頃から〈離職しないためのスキル〉を講義している。意識を持ち、すべての講義を受講した生徒には早期離職した者は見受けられない。外部の方の言葉で、社会の視点をふまえた「ものの考え方」を学べる貴重な講座である。この講座は希望者参加の形をとるため、全回通しての生徒の変容を見ることが難しいこと、内定が出ると出席率が減少してしまうこと等の問題はあったが、主体的に本人の意志での参加というところに意義があったと思う。

また、問題点としてあげた「昼間定時制」に対する認知度の低さについては、応募する機会を広げるため、教員が企業訪問や企業との情報交換会等で本校生徒の現状や学校について説明し理解を得られるように努めた。また、キャリアカウンセラーも独自に山形県内の企業をまわってくださっている。企業の中には卒業生の勤務態度を高く評価していただいていて、ぜひ本校から採用したいという声もあると伺っている。早期離職した企業からも、「離職は個人の事情なので、今年も応募してください」と後輩に門戸を開いてくださることも多い。今後も、企業との連絡を密に取りながら、離職の減少、在学中の就業意識の修養に努めていきたい。

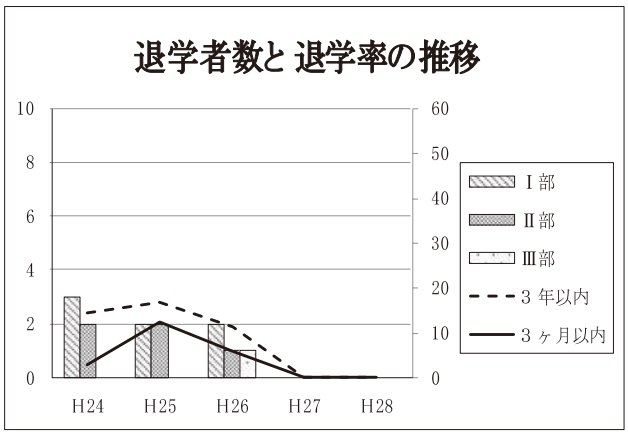
（３）本校定時制の退学状況について

離職同様に、卒業後の進学者についても退学状況を調査した。推進会議では入学後に大学の授業についていけない等の学力を理由とした退学についてのお話があった。

図８は図６との比較ができるように、同軸で各部の退学者数と退学率のグラフを作成した。就職に比べ、進学者の退学率は低く、

平成２４年度　１４．３％
平成２５年度　１６．７％
平成２６年度　１１．２％

図８



平成２７・２８年度は現時点で退学の報告を受けていない。３年に充たない時点での数値だが、短大や専門学校は２～３年で卒業するため、数値にはほぼ変動はないものと考えられる。進学は３ヶ月以内の退学率＝卒業までの退学率といって過言ではない。つまり、就職以上にこの３ヶ月が大きな壁となる。進学者の主な退学事由は心身の不調、経済的理由、通ってみてのミスマッチというものが多く、あまり学力不足での退学は見

受けられない。ただし、本校は昼間定時制を設けているため他の夜間定時制と比べ生徒数・教員数も多く、進学意識を持って高校に入学（転編入）した生徒も少なからずいるので、事情が異なることをふまえなければならない。

本校は、不登校・発達障害の疑いなど中学からの申し送りがある生徒が８割を占める。毎年８月に行われる中学校との情報交換会で驚かれるような変貌を遂げ休まず登校している生徒がいる一方、そのきっかけをつかめない生徒もいる。在学中から心身不調で欠席が多く、社会に出るにはもう少し時間がほしいと本人・保護者が進学を希望することが多い。そのため「通学の混雑が耐えられない」「周囲になじめない」「学習内容が自分の学びたいことではなかった」など、新しい環境・集団に対する不適応が退学の理由となっている。特に、発達障害の診断を受けている生徒はこだわりが強いため、進学先での人間関係（教員・生徒ともに）に苦慮する者も多く、不満を訴えて退学に至るケースもある。受験に際しては進学先にも相談し、複数回の見学・面談を重ねるなど丁寧に進めても、本人が「合わない」と判断すると立ち止まって考えることができず退学してしまう。その後、新たな進学先にチャレンジする者もいれば、しばらく療養期間をとるという者もいる。

進学先を卒業後は概ね就職しているようだが、就職には至らずというケースも少なからずある。退学同様、卒業後も高校が相談の場となれればよいが年数が経つに従い、教員の異動等もあって難しくなる。相談できるような外部機関を本人・保護者に在学中に知らせることが重要と考える。

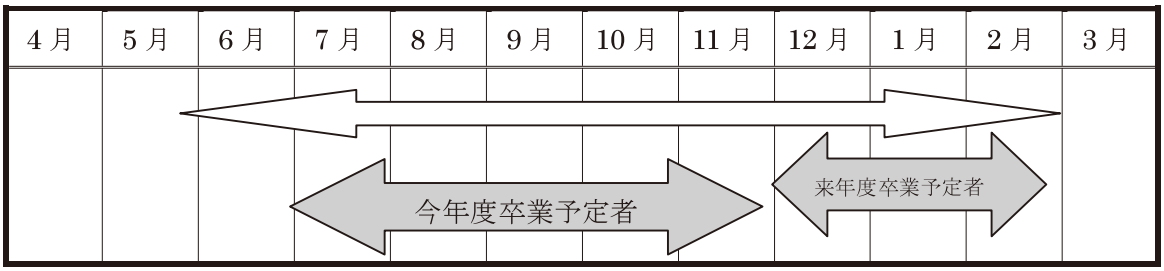
２ 小委員会の活動報告

Ａ委員会　生徒の相談活動（定時制）

（１）生徒への直接支援の体制

今年度もキャリアカウンセラー桑名 暢先生と、進路アドバイザーの尾形 淳子先生を中心に〈進路サポート室〉での生徒の個別の相談活動を行った。定時制は下記のような１年の流れで実施しており、卒業予定者の初回は授業の空き時間に面談を組んでいる。（面談時間は２０分程度）その後、必要に応じて予約を行うという形を取った。通信制は、担任が事前相談を実施した後に、面談を申し込むという形で進めている。

※白矢印：全生徒対象　／　網掛け矢印：主に指定学年中心



この事業により〈進路サポート室〉の認知も進み、すべての年次で気軽に相談に来るようになっている。その反面、今年度卒業予定者についての面談指導は活発とはいかなった。年度によって生徒の性質も違うため、「どうしても就職・進学したい」という積極的な行動に出ることができず、先送りにしてしまうケースが少なくなかった。そのためか、今年度の求人数はバブル期に匹敵するほど好況であったが、本校の第１次応募における内定率は４割程度という状況であった。ここ数年、第１次応募の内定率は７割を超えていただけに対策を考える必要を感じた。応募が集中する企業を受けたということもあるが、好景気による楽観なのか例年に比して就職試験の対策にかける時間が絶対的に少なく、進路サポート室の活用も活発ではなかったことが原因と思われた。そこで、この状態で２次応募に進んでも同じ結果を招きかねないということで、キャリアカウンセラーの桑名先生と相談し「緊急集会」を計画した。面接に臨む意欲の喚起、ものの考え方を講演していただき、進路サポート室の積極的な活用を呼びかけた。

また、同様のことが進学者にもあり AO 入試に十分な対策をせずに臨んだため不合格となる生徒もいた。そこで進学者の個別面談を再度組むことにした。受験前に何をしなくてはならないか、どういう考えで臨むべきかを明確にし、その後も面談を継続的に行った。本校は進路決定期になると精神不安定となる生徒も多く、やるべきことがわかっていても欠席を続けてしまうなど、フォローが必要な生徒に対してもこの外部人材活用は有効である。

（２）相談事業の実態

事業報告１に示したとおり、本校では卒業時には約２０名（全体の３０％）が進路先未定という課題があった。この未定者が激減したことは最も大きな成果である。もちろん、生徒の抱えている事情はそれぞれ異なるため１００％には至らない。それでも１００％を目指して取り組むことが重要だと考えている。特に就職については、キャリアカウンセリング・就職セミナー・進路ガイダンスを本事業とタイアップさせたため、自らの進路を具体的に考えることがスムーズにできたようである。

①相談状況

５月から１２月末までの面談回数は、進路アドバイザーが延べ３６７回、キャリアカウンセラーが延べ１１１回。複数回の実施状況は下記のとおりである。

【進路アドバイザーの面談：回数別】　（人）

面談回数	今年度卒業予定者		来年度卒業予定者		在校生	計
	進学	就職	進学	就職		
2	4	2	2	3	1	12
3	3	4	1	1		9
4	2	4		1		7
5	1	2				3
6	1	1				2
7	2					2
8		1				1
9		1	1			2
10	1	4				5
11		1				1
12		2		1		3
15		1				1
19		1				1
23	1					1
29		1				1
計	15	25	4	6	1	51

（Ⅳ部５名を含む）

【キャリアカンセラーの面談：回数別】　（人）

面談回数	定時制			通信制		計
	卒業予定	在校生	教員	生徒	教員	
2	7		3	2	3	15
3	2		1	4	1	8
4	4			1		5
5	1			2	1	4
計	14		4	9	5	32

面談を複数回実施した生徒には丁寧な指導（志望選択の助言から、それぞれの受験に合わせた対策）をしていただき、進路目標を明確にし、達成できたケースが目立った。

【個別面談の具体的内容】

a　定時制 進学（１８歳男子）：専門学校進学

保育士になりたいという進路希望を明確にもちつつも、不安を抱えやすい生徒である。

面談初日、本人は、保育士となる意欲と具体的な進学希望先を挙げたが、一方で、自分がネガティブで落ち込みやすい性格であることも訴えた。その後、ことあるごとに相談室を訪れては、保育士への夢と同時に不登校であった過去を語った。２週間程すると、成績面や、モチベーションが保てないという自分の弱点を訴えた。「弱点がわかっているのなら、できることから進めよう」と励ましたが、なかなか気持ちの切り替えが出来なかった。

その後、キャリアカウンセラーも関わり保護者も含めて学校選びについてアドバイスし、学校見学に出かけることなった。しかし、出かけるまでにも準備面などで様々な不安を訴えてきた。その都度応じて問題の解決に努め、背中を押した。学校見学を終えて受験の意志を固めると、一時的に情緒が安定した。９月下旬に志望校に合格して喜んだのも束の間、その前後から今度は授業科目であるピアノなど、入学後の不安を訴えてきた。早めのレッスンを促し、自分で練習する方法を紹介すると、ポジティヴにとらえ、実行しようと試みた。アドバイスを進んで受け入れるようになったのは大きな進歩である。その後も本人の希望に沿ってキャリアカウンセラーとの相談の機会を設定した。現在では不安も少なく生活できるようになり、弱点克服に向かって行動できるようになった。支える側との信頼関係の深まりが背景にあってのことと思われる。

（キャリアカウンセラー３回、進路アドバイザー２３回）

b　定時制　就職（１８歳男子）：製造業内定

正義感があり真面目な性格だが、プレッシャーに弱く、自己主張が弱い。ほとんど会話せず、一言を発するのに時間を要する。他者の問いには“うなずく”仕草で、理解しているという意思表示をする生徒である。６月頃にはこちらから面談時間を設定し、自主的に行動することを促したが、積極的な行動は見られなかった。７月に入り何度も働き掛け、企業選択を一緒に行うが、その際も“うなずく”だけで、言葉での意思表示が無いままだった。意欲的に取り組んで欲しいという願いと保護者とも十分話し合う時間を持って欲しいという願いから、夏季休暇前に数か所の求人票を手渡した。その後、三者面談で決まった初回企業は不合格だった。

２度目は、受験数週間前に担任の後押しで相談に訪れ、面接練習を行った。質問に対して「はい」と返事を発する練習から始め、長く話そうと思わずに短い言葉で話せばいいことなど、本人の現状を踏まえた話し方のポイントを繰り返し確認し、自信につなげようとした。また、無理強いせず本人が答えやすい質問項目から着手するようにしたところ、受け答えができるようになり、無事内定を得ることができた。現在は、少しずつだが、４月からの就職先の勤務時間に支障をきたさぬよう、早起きの生活習慣をつける努力を続けている。就職受験に合格したいという一心で、素直にアドバイスを受け入れ力を出し切ったことが自信となったようである。

（進路アドバイザー１９回）

②平成２９年度卒業予定者対象アンケート（１２月実施）

〇進路サポート室（尾形 淳子 進路アドバイザー・桑名 暢 キャリアカンセラー）について

１．進路サポート室を相談・面接等で訪問した回数は？

ａ ０回　　ｂ １～２回　　ｃ ３～５回　　ｄ ５回以上

	３年次				４年次				計			
	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d
Ⅰ部		10	6	7			2	1		10	8	8
Ⅱ部		4	1	3		1	4	1		5	5	4
Ⅲ部			1	1		2	2	2		2	3	3
計		14	8	11		3	8	4		17	16	15

２．昨年度から進路サポート室で相談・面談ができるようになりましたが、どうでしたか。

ａ とても良かった　　ｂ 良かった　　ｃ 良くない　　ｄ とても良くない

	３年次				４年次				計			
	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d
Ⅰ部	8	14	1		2	1			10	15	1	
Ⅱ部	3	4	1		3	3			6	7	1	
Ⅲ部	1	1			3	3			4	4		
計	12	19	2		8	7			20	26	2	

３．２でａ，ｂと回答した方は、具体的にどういう点が良かったと思いましたか。

基本的に明るく接してくださった。／親身に相談に乗ってくれた。／とても優しく話していただいた。／真剣に話を聞いていただいた。／深く話を聞いてもらえた。／私たちの気持ちをわかってくれている。／たくさん話ができた。／進路のことを一緒に考えてもらった。／自分に足りない点を的確に指摘してもらえた。／何度も面接や履歴書を書く練習をしていただいた。／資料を用意していただいた。／とても頼りになった。／自分の進路が明確になった。／的確・現実的なアドバイスをいただけた。／細やかに面接等のアドバイスをしてくださった。／進学に関して具体的な例をお話していただいた。／自分や周りが知らない専門的なことを教えていただいた。／わかりやすく教えてくださった。／聞きたいことをいつでも聞けることがよかった。／視野が広がった／迷っていたこと、不安なこと、知りたいことを相談することができた。／自信をつけていただいた。／話すことによって自分自身の気持ちを再確認できた。／など

４．２でｃ，ｄと回答した方は、具体的にどう改善してほしいと思いますか。

話しにくかった。／自分は他の人と違うような職をめざしていたので参考にならなかった。

５．進路アドバイザーおよびキャリアカンセラーの支援により、学校生活を意欲的に送ることができるようになりましたか。

ａ 当てはまる　　ｂ どちらかというと当てはまる

ｃ どちらかというと当てはまらない　　ｄ 当てはまらない

	３年次					４年次					計				
	a	b	c	d	無回答	a	b	c	d	無回答	a	b	c	d	無回答
Ⅰ部	5	10	5	1	2	1	2				6	12	5	1	2
Ⅱ部	2	4	2			4	2				6	6	2		
Ⅲ部	1				1	1	4			1	2	4			2
計	8	14	7	1	3	6	8			1	14	22	7	1	4

６．相談活動について、なんでも思ったことを書いてください。

最高です。／桑名先生が来校する日時をわかりやすく示してほしかった。／押し付けがましく感じるときがあった。／先生とは違う形で教えていただいた。詳しく教えていただけた。／就職・進学で悩んだときや、自分には何がにあうのかとか、何ができるかとか何がしたいかと悩んだ時に、とてもわかりやすくアドバイスをもらえてすごくためになった。／「物事には全てにおいて順番がある」の言葉どおりのことをしてくださった。それにより、夢が目標に変わることができた。／自分の意見を否定しなかった。

○ソーシャルスキルトレーニング講座（志望動機講座含む）

※12 月にアンケートを取ったため、ＳＳＴ講座は 10 回までの実施。

７．講座に参加した回数は？

ａ ０回　　ｂ １～２回　　ｃ ３～５回　　ｄ ５回以上

	３年次				４年次				計			
	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d
Ⅰ部	2	5	14	2				3	2	5	14	5
Ⅱ部	4	1	3			1	4	1	4	2	7	1
Ⅲ部		2			2	3	1		2	5	1	
計	6	8	17	2	2	4	5	4	8	12	22	6

８．７で参加したことがあるという方は、受講してどうでしたか。

ａ とても良かった。　ｂ 良かった　ｃ 良くない　ｄ とても良くない

	３年次					４年次					計				
	a	b	c	d	無回答	a	b	c	d	無回答	a	b	c	d	無回答
Ⅰ部	9	12				3					12	12			
Ⅱ部	4					4	1			1	8	1			1
Ⅲ部	1	1				2	2				3	3			
計	14	13				9	3			1	23	16			1

９．８でａ，ｂと回答した方は、どういう点が役にたちましたか。

全部。／会社見学のことなど、わかりやすかった。／メモの取り方。／自分に足りていない力とその対処法を学ぶことができた。／就職活動の進め方がよくわかった。／社会に出た時の人との関わり方。／志望動機の書き方。／就職活動の後（社会に出た後）にも役立つ話が聞けた。／インプットとアウトプットの大切さややり方。／無理なことは言わず、日常的にできることを教えてくれた。／就職活動に役立つことを教わった。／自分の不安要素が講座に参加することによってなくなって安心して面接に行くことができた。／学校の先生とは違う視点からためになる話をたくさん聞くことができた。／「敬語について」がとても印象深かった。／知らないことを教えてもらった。／相手の気持ちや、社会に出てからのルールを学ぶことができた。／普段聞くことのできない話が聞けた。／コミュニケーション能力の向上に役立った。／面接について大切なことを丁寧に教えていただいた。／様々な性格の人にどうやって接すればよいのか、という点。／自己ＰＲのまとめ方。／など

１０．８でｃ，ｄと回答した方は、どういう内容だったらよかったと思いますか。

該当者なし

１１．ソーシャルスキル講座について、なんでも思ったことを書いてください。

すばらしく充実したラインナップだった。／もっと早い時間に受けたかった（時間が遅いことで参加するハードルを高く感じた）。／ 自分のためになる話なので、出て損はないと思った。／大切なことがいろいろわかった。／とてもわかりやすくて、夏休みの講座などすごく自分のためになり、試験の時に講座で教わったことがとても役立った。これからも続けていってほしいと思った。／前々から参加しておけばもっと色々なことを知れたのかと思うと、少し悔しい気持ちになった。